

## 7. 2003年世界柔道選手権大会の競技傾向の分析

### —男女の比較—

鹿屋体育大学	中村	勇
武蔵大学	山口	香
鹿屋体育大学	重岡	孝文
鹿屋体育大学	濱田	初幸
講道館	竹内	善徳

## 7. Comparison of Performance between Male and Female in 2003 World Judo Championships

Isamu Nakamura	(National Institute of Fitness and Sports in Kanoya)
Kaori Yamaguchi	(Musashi University)
Takafumi Shigeoka	(National Institute of Fitness and Sports in Kanoya)
Hatsuyuki Hamada	(National Institute of Fitness and Sports in Kanoya)
Yoshinori Takeuchi	(Kodokan Judo Institute)

The 2003 World Judo Championships was the first Championships in which both male and female fought under the same contest time period. The purpose of this study was to clarify difference and similarity of male and female in terms of performance at the 2003 World Judo Championships.

The official results of World Judo Championships (WJC) from 1995 to 2003 were statistically processed so that winning scores, technique categories of winning score, scoring *nage-waza*, scoring penalties, and average contest time could be compared.

The results show *Ippon* of female was increased and *Hanteil/GS* decreased significantly in 2003, and consequently sex difference in winning scores disappeared for the first time. Female preferred to use more *katame-waza* than male in winning situation. Comparison of *nage-waza* groups showed male executed more *sutemi-waza* group, while female used more *harai-goshi* and *kari-waza* group. Male receive more Defensive-posture penalty and female did more Avoid-grip penalty.

Increase of female contest period by 1 minute may have affected the increase of *Ippon* and decrease of *Hanteil/GS*. Male prefers a type of *nage-wazas* using more power of upper body, while female likes *nage-wazas* that use more lower body. Combination of time period change and other new rules seems to help judo become more dynamic for both sexes.

## I. 緒言

2003年9月に大阪市で開催された第23回世界柔道選手権大会（以降03大会）は97の国や地域から630人の出場選手という1995年千葉大会（以降95大会）に次ぐ最大規模の大会となった。試合も男女決勝戦16試合中13試合が「一本勝ち」で決まるなど見応えがあった大会との評価があった<sup>11) 21) 23)</sup>。この背景には80年代に支配的だった柔道のポイント化やレスリング化<sup>28)</sup>に対抗する国際柔道界の継続した取り組みの成果だと言われている。

1990年代始め、国際柔道連盟（IJF）は当時頻繁にみられた小スコアを先取した後は、まともに組み合わず守りを固める防衛的戦術や、相手の反則行為を誘い出す戦術に対する対策を講じ始めた。1995年までに「偽装的攻撃」や「危険地帯で5秒間以上攻撃を行わない場合」の罰則強化、「教育的指導」の廃止、組みにくい小さい柔道衣の排除などである。特に1997年以降、オリンピック競技として生き残るには、観る競技としてのおもしろさを追求する必要があるとしてさらに精神的な改革が実行された。特に積極的攻防を阻害する柔道スタイルを「ネガティブ柔道（消極的柔道）」とルールに明記し罰則を整理、強化してきた<sup>10) 17) 25)</sup>。

しかし1997年パリ大会（以降97大会）100kg超級決勝戦で拙速な罰則適用がみられるなど審判員による反則行為への過剰反応に対する批判が現れてきた。その反省から罰則適用方法の見直しが図られた結果、1999年バーミンガム大会（以降99大会）ではそうした問題が減少したと評価を受けた<sup>6) 29)</sup>。その後2000年シドニーオリンピック100kg超級決勝戦での技効果の問題から誤審防止対策に焦点が当てられ、ジュリー（審判委員）による監督制度やIJF審判員のレベル向上策などの改善策が実行され、2001年ミュンヘン大会（以降01大会）では特に男子の「一本勝ち」が増加するなど、柔道のダイナミック化（選手双方が積極的攻防を行う柔道スタイル）が進んだ大会となった<sup>8) 26)</sup>。

この大会直前のIJF選挙で新しく審判理事に就任したバルコス是一般観客にも勝敗をわかりやすいルールや勝敗決定過程の簡素化の目的で、ゴールデンスコア方式延長戦の導入や罰則の簡素化を図る一方、女子試合時間を男子と同じ5分間にすることや、試合中の休息目的で乱用される負傷における医師診察の原則禁止など、次々に強化現場にとって重要なルール改定を決めていった<sup>9) 12)</sup>。オリンピックへの出場枠獲得につながる大会である03大会は注目度が高かったが、こういったルール改定の試合内容に対する影響をみる大会という意味でも興味深いものがあった。

中村らによると03大会はそれまでの4大会と比較した分析で、女子の試合内容に大きな変化がみられたと報告している<sup>13) 18)</sup>。「一本勝ち」で男子は01大会より減少傾向があったのに対し、女子で大きく増加した理由の一因としてこの試合時間増加の影響を指摘している。この大会は国際柔道競技史上初めて男女試合時間が同じとなったことで、男女差による柔道スタイルの差違を客観的に検証することが可能となった。

したがって本研究の目的は2003年世界柔道選手権大会の試合内容について、過去大会や男女間の比較を行うことにより、近年の国際競技傾向における男女差について明らかにすることにある。

## II. 研究方法

本研究で用いた試合内容に関するデータはIJF所有の大会公式記録を基にした。この記録は大会期間中各試合テーブルで記録担当者により記録されたものを教育コーチング委員会がデータベースに入力したものであり、各種試合情報、選手名、全スコアの詳細（技、罰則）、スコア取得時間などが記録されている。IJF Sports and Organization Rulesによると記録担当者は21歳以上で国内審判歴を有し審判規定を熟知している者であり、事前に十分なトレーニングを積むこととなってい

表1 1995年以降の世界選手権の統計  
Table 1. Statistics of World Championships since 1995

Year Location	1995 Chiba			1997 Paris			1999 Birmingham		
	Male	Female	Total	Male	Female	Total	Male	Female	Total
Countries/Region*	88	65	97	85	60	93	87	67	93
Participants*	365	272	637	325	242	567	370	252	622
Contests analyzed	458	359	817	434	324	758	456	325	781

2001 Munich			2003 Osaka		
Male	Female	Total	Male	Female	Total
85	58	88	89	68	97
362	224	586	368	262	630
447	305	752	470	364	834

\* Figures given by IJF (1995-2001), and by All Japan Judo Federation (2003)

る。同記録については95大会以降の分が入手可能となっており、同大会以降の世界選手権大会について検討した。

この記録を基に、最終的勝利をもたらした勝利スコア、勝利スコアをもたらした技、何らかのスコアを獲得したスコア獲得技・罰則、試合終了時間について大会間、男女間でクロス集計表にまとめ比較を行った。

なお分析対象とした5大会の出場国・地域数、出場選手数の内訳は表1の通りである。

### III. 結果

#### 1. 勝利スコア

図1では、大会ごとに「一本勝ち (Ippon)」、「技あり」「有効」「効果」を合計した「優勢勝ち (Other Scores)」、「罰則 (Penalty)」、「判定・延長 (Hantei/GS)」を男女間で比較した。男女とも全大会において「一本勝ち」が最も多いが、01大会までは男子が女子より有意に高かった。女子は、99大会までの「優勢勝ち」、99大会と01大会の「判定・延長」が有意に多くみられた。しかし03大会ではいずれの勝利スコアにおいても有意差はみられなかった。01大会までは、男子は「一本勝ち」、女子は「優勢勝ち」が多いという男女差がみられたが、試合時間統一後の03大会では男女間でスコア取得傾向に差違がなかった。

#### 2. 勝利スコア獲得技の内訳

図2は勝利スコアを獲得した技について「投技 (Nage-waza)」「固技 (Katame-waza)」のカテゴリで比較したものである。いずれの大会においても男女ともに「投技」による勝利が最も多いが、97大会以降は女子の「固技」の割合が男子より有意に高く、03大会でも同様であった。

#### 4. 勝利スコア獲得技

試合における投技名称の判断は場合によっては非常に難しいことはこれまでも指摘されている。特に海外の選手には「作り」「崩し」がないまま施技し、途中で技を変化させてくる傾向がある。

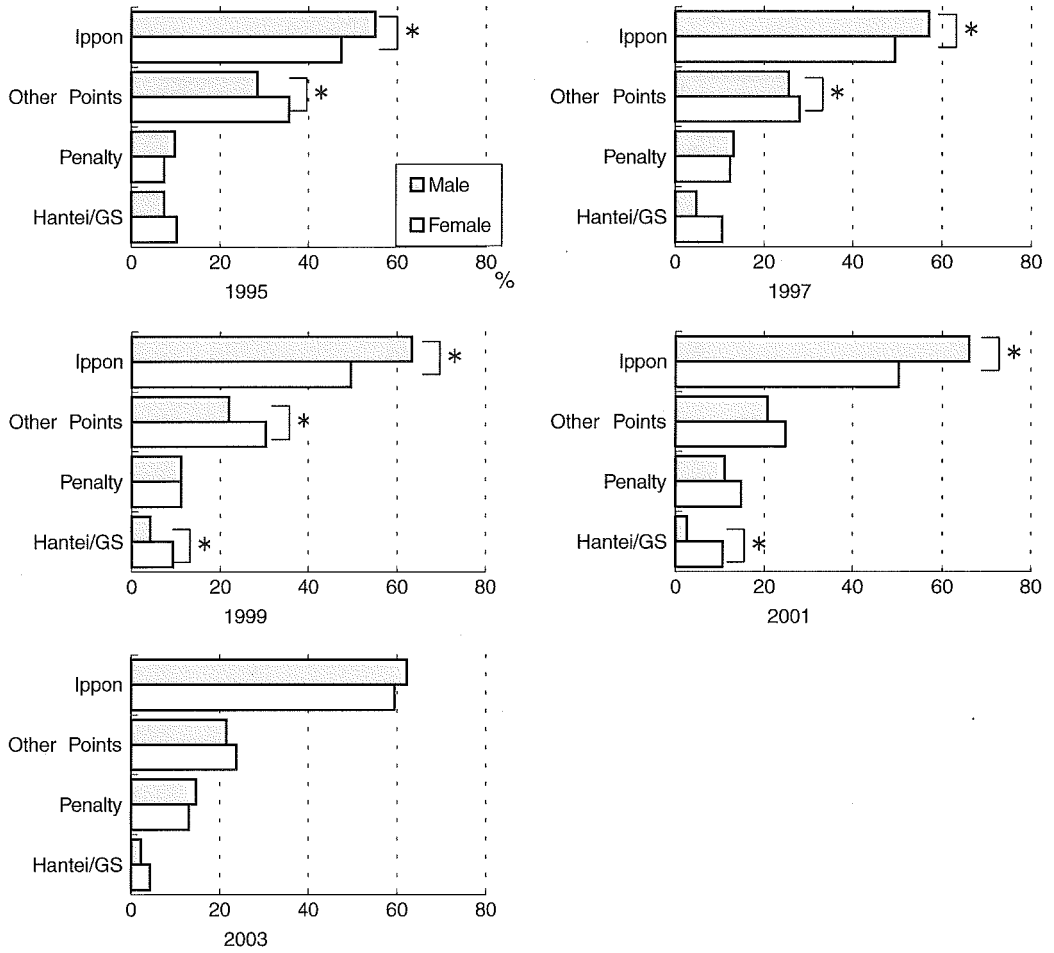


図1 男女間でみた勝利のスコアの比較  
Figure 1. Winning Scores of men and women

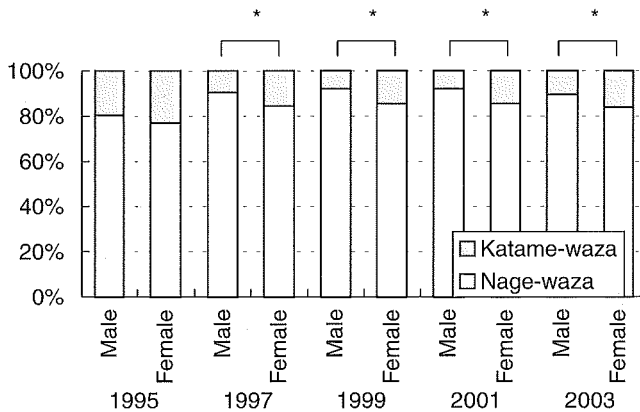


図2 男女間でみた勝利スコア獲得投技/固技の比較  
Figure 2. Winning waza category between Man and Women

またレスリングやサンボなどの技術を応用したものもありこれまでの投技分類で判断できにくいケースも出てきている。さらに、本研究で用いた大会公式記録における投技名称の判断は試合場ごとに別々の担当者が行うため、試合場間、大会間で判断基準が不統一という問題もかかえている<sup>16)</sup>。

このためこういった技名判断基準の違いを最小限にとどめるため、本研究では表2に示したとおり似た傾向の投技をまとめた「技群」を作成した。ここでは「手技」「足技」といった分類から離れ、技への入り方、決め方が類似した技をひとまとめにした。足払はASHI群、払腰や類似したスタイルの技はHARA群、返し技や「後の先」の技はKAES群、大内刈などの「刈り技」とそれに類似した技はKARI群、朽木倒など足や脚を取って掛ける技はKUCH群、背負投や一本背負投などに加え体落も含めたSEOI群、隅返や裏投などの捨身技をSUTE群などとした。近年みられる肩車は浮技や袖釣込腰などとの類似性や連携がみられるためSUTE群に含めた。また掬投は「後の先」の技としての性格が強いことからKAES群とした。

なお分類に際しては「講道館柔道・投技」<sup>2) 3) 4)</sup>を参考にした。

表2 技群と公式技名称  
Table 2. Waza groups and Official Waza

Waza Group	IJF Official Waza	Waza Group	IJF Official Waza
ASHI	Deashi-barai	OGOS	Koshi-guruma
	Okuri-ashi-barai		O-goshi
HARA	Ashi-guruma		Tsuri-goshi
	Hane-makikomi		Uki-goshi
	Harai-goshi	SEOI	Ippon-seoi-nage
	Harai-makikomi		Seoi-nage
	O-guruma		Seoi-otoshi
Soto-makikomi	Tai-otoshi		
Harai-tsurikomi-ashi	Uchi-makikomi		
HIZA	Hiza-guruma	SUMI	Sumi-otoshi
	Sasae-tsurikomi-ashi		Uki-otoshi
	KAES		Harai-goshi-gaeshi
Ko-uchi-gaeshi		Hiki-komi-gaeshi	
O-soto-gaeshi		Kata-guruma	
O-uchi-gaeshi		Obi-tori-gaeshi	
Sukui-nage		Sumi-gaeshi	
Tsubami-gaeshi		Tani-otoshi	
Uchi-mata-gaeshi		Tomoe-nage	
Uchi-mata-sukashi		Uki-waza	
Ushiro-goshi		Ura-nage	
Utsuri-goshi		Yoko-gake	
KARI	Ko-soto-gake	TURI	Yoko-guruma
	Ko-soto-gari		Yoko-otoshi
	Ko-uchi-gari		Yoko-wakare
	Ko-uchi-makikomi		Tawara-gaeshi
	O-soto-gari	UCHI	Sode-tsurikomi-goshi
	O-soto-guruma		Tsurikomi-goshi
	O-soto-maki-komi		Uchi-mata
	O-soto-otoshi		Uchi-mata-makikomi
O-uchi-gari			
KUCH	Kibisu-gaeshi		
	Kuchiki-taoshi		
	Morote-gari		

表3 男女間でみたスコア獲得技群の比較  
Table 3 Scoring waza groups between male and female

Group	1995		1997		1999		2001		2003	
	Male	Female	Male	Female	Male	Female	Male	Female	Male	Female
KARI	29.3	30.7	25.0	24.6	27.5	36.0 *	20.9	21.3	26.5	31.7 *
SEOI	11.7	14.1	15.3	15.6	15.0	18.6	15.4	21.9 *	12.8	12.2
SUTE	18.3	6.0 *	17.6	10.9 *	20.0	10.9 *	23.2	14.7 *	19.3	8.0 *
HARA	5.3	6.8	6.4	10.5 *	8.2	12.8 *	7.3	13.6 *	4.3	8.4 *
KAES	6.1	8.2	8.9	7.3	7.6	2.6 *	10.2	5.3 *	10.1	12.2
UCHI	8.6	11.1	12.9	12.7	10.4	8.6	8.1	7.5	7.3	8.2
ASHI	2.0	3.5	3.4	1.7	3.1	2.1	2.7	1.9	1.4	1.5
KUCH	7.9	11.1	5.0	9.0 *	2.4	3.3	7.2	10.1	10.4	8.8
OGOS	2.6	0.8 *	1.4	1.9	2.7	2.6	2.6	1.9	1.3	1.9
OTHER	8.4	7.6	4.2	5.8	3.1	2.6	2.4	1.9	6.6	6.9

\*: P<0.05 between male and female

この分類に基づき表3では何らかのスコアを獲得した投技群全てについて男女別にみたものである。なお比較的例数が少なく特徴が見られない群はOTHERとしてひとまとめにした。全大会においてSUTE群で有意な男女差がみられた。一方、女子は03大会では下半身を相手に巻き付けて身体を浴びせる系統のHARA群とKARI群が比較的多かった。99大会と01大会に男子で多かったKAES群だが03大会では女子に増加傾向がみられた。

#### 5 罰則スコアの反則内容

表4は全獲得スコア中罰則によるものについてその内容を比較したものである。なお「故意に取り組まない反則 (Avoid-Grip)」、「ピストルグリップ (Pistol-Grip)」などについて、罰則強化がなされた99大会以前の値はひとまとめにして統計処理を行った。男女ともに「積極的戦意の欠如 (Non-Combativity)」が全体の約7割を占めるが、03大会で男女間の差違がみられたのは、「防御姿勢 (Defensive-Posture)」と「故意に取り組まない反則 (Avoid-Grip)」であり、前者は男子が、後者は女子が有意に多かった。特に後者は01大会でも同様の傾向にあった。

表4 男女間にみた罰則スコアの反則内容  
Table 4. Contents of penalty scores between men and women

	1995		1997		1999		2001		2003	
	MALE	FEMALE	MALE	FEMALE	MALE	FEMALE	MALE	FEMALE	MALE	FEMALE
Non-Combativity	83.0	80.2	78.5	78.8	68.7	64.0	66.5	60.5	69.4	72.9
Defensive-Posture	5.8	4.2	4.5	3.1	13.2	13.7	11.0	9.3	9.3	4.6 *
False-Attack	4.5	4.9	7.3	9.8	0.7	2.9	4.8	9.6 *	5.3	6.0
Outside-Contest-Area	2.2	5.3	4.2	2.8	2.9	3.2	3.9	4.0	4.5	2.9
Hold-Same-Side	2.6	1.4	2.3	2.5	2.8	3.2	2.7	3.1	3.2	3.4
Avoid-Grip	0.0	0.0	0.6	0.0	2.8	5.0	1.8	6.8 *	2.1	5.3 *
Pistol-Grip	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	2.5	2.9	2.5	0.6	1.4
Hold-Trouser-Leg	0.0	0.0	1.1	0.9	1.9	1.4	2.3	2.5	0.6	0.7
Pull-Down	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	3.6	0.0	0.6	0.0	0.0
Fingers-In-Sleeve	0.9	1.1	0.2	0.6	0.3	0.0	0.3	0.3	1.5	0.5

\*: P<0.05 between male and female

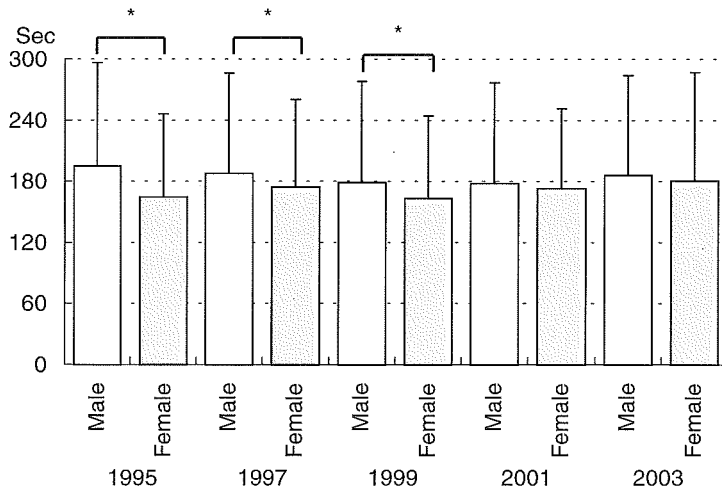


図3 男女間でみた平均試合時間の比較

Figure 3. Average contest time between men and woman

#### 5. 平均試合時間

図3は男女間の平均試合時間を比較したものである。99大会までは両者間に有意差が認められたが、以降は差違がみられない。01大会でも男女試合時間が1分間違っていたが、双方とも平均約3分間で決着していたことになる。

#### VI. 考察

今回研究対象にした5回の世界選手権大会は8年間という比較的短期間ではあるが、国際柔道界に大きな変革があった時期に開催されている。

1995年、IJF会長に就任したパクは柔道をより見応えのあるものにすべきという方針を打ち出し、それまでのネガティブ柔道からダイナミック柔道へ流れを変えようとした。これを受けて当時の審判理事コジマを中心に、特に罰則に関する審判ルールの改定を頻繁に行ってきた。これに対して現場関係者の混乱や、罰則偏重が指摘されるなどの問題もあったが<sup>19)</sup> 20)、99大会ごろよりその効果が現れてきたと評価され始めた<sup>6)</sup> 20)。また一般大衆にもわかりやすくという観点から、カラー柔道衣導入、ルールの簡素化などが実施されたのもこの期間である。

一方、90年代初頭、共産圏の解体に伴いヨーロッパを中心とした地域の再編があり、世界の柔道勢力分布に変化が出てきたのも90年代後半であった。中村は2004年オリンピックのメダル獲得国分析の中で、フランスなどの西ヨーロッパの弱体化とグルジアなどの東ヨーロッパ勢の台頭が顕著になってきたと指摘している<sup>14)</sup>。

今回の結果では03大会の傾向としてそれまで継続してみられていた「一本勝ち」の差がなくなっていた。これは主に女子の「一本」の増加による部分が大いだと判断できるが、01大会からの2年という短期間に世界レベルで技術やスタイル、体面での顕著な変化が起こったとは考えにくいし、強豪国分布にも大きな変動はない<sup>18)</sup> ため、選手側の変化によるとは言いがたい。また女子のみをターゲットにした偏った審判傾向は考えられないことから、審判サイドの問題ではないといえる。こういったことから、この結果は女子試合時間が1分間延びたことによる影響ではないかと推察される。03大会ではそれまでの大会と比較して女子の「判定・延長」が減少する傾向にあ

ったが、同様の理由と考えられる。試合時間が延びたことは勝敗を決するチャンスが1分間増えたという純粋に時間的な理由と、選手間の体力差がより鮮明に出るため決着がつきやすいという二つの理由があると推察される。また男女間の平均試合時間は01大会以降差がなく、ルール改定にかかわらず試合決着の時間に男女差はないと言える。

一方で勝利スコア獲得技やスコア獲得技群、また罰則の内容など技術的傾向にはこれまで通り男女間の違いが現れていた。投技中心で「肩車」を含んだ上体の力を効果的に用いる捨身技系の技が多い男子、固技の割合が比較的高く脚を巻き付け体幹部を浴びせやすい刈技や払腰系の技が多い女子の技術傾向は、アテネオリンピックの速報データでも同様であった<sup>15)</sup>。女子は男子にみられるグルジア系選手の躍進がみられない<sup>27)</sup>が、上体の力を用いた技が効きにくく固技が重要な位置づけにある女子特有の技術傾向や体力要因も関係があるのかもしれない。

2003年世界選手権は女子試合時間の延長したことで、初めて男子と直接比較が行える大会となった。今回は試合時間延長と女子の「一本勝ち」増加との間の直接的関係は立証できなかったが、強い関係があると推察される。延長戦導入、医師診察の原則禁止と合わせて女子試合時間の延長は、5分間休みなく攻め続ける体力と技術力、それに集中力を兼ね備えた選手にとって有利なルール改定であり、ヨーロッパ柔道で見られるルールを悪用したごまかしの柔道が通用しなくなった。このことが翌年開催のアテネオリンピックにおける日本女子柔道の成功の一因と考える関係者も少なくない。03大会とアテネオリンピックは、ルール改定直後の移行期の大会であり、もともと稽古の質量に勝る日本<sup>5) 22) 24)</sup>の優位性が発揮された大会と言えるが、2005年カイロ世界選手権には諸外国勢のスタミナ面での対応が進むと考えられる。しかし施技傾向の男女差は現時点でも存在するため、競技力向上の現場においては参考となるかもしれない。

#### 参考・引用文献

- 1) 醍醐敏郎, はじめに, 講道館柔道・投技 上巻, 本の友社, 東京, 1999.
- 2) 醍醐敏郎, 講道館柔道・投技 上巻, 本の友社, 東京, 1999.
- 3) 醍醐敏郎, 講道館柔道・投技 中巻, 本の友社, 東京, 1999.
- 4) 醍醐敏郎, 講道館柔道・投技 下巻, 本の友社, 東京, 1999.
- 5) 出口達也, 大会を終えて—女子の部, 柔道, 74 (11), pp. 43-45, 2003.
- 6) 藤田弘明, 大会総評, 柔道, 70 (12), pp. 32-33, 1999.
- 7) International Judo Federation, IJF Sports and Organization Rules, International Judo Federation, 2003.
- 8) 射手矢岬, 世界柔道選手権大会, 柔道, 72 (9), pp. 6-23, 2001.
- 9) 木村昌彦, 世界女子柔道選手権大会, 柔道, 74 (11), pp. 21-34, 2003.
- 10) 小俣幸嗣他, 詳解柔道のルールと審判法, 大修館書店, 東京, p. 17, 2004.
- 11) 小俣幸嗣, 大会観戦記, 柔道, 74 (11), pp. 48-50, 2003.
- 12) 松下三郎, 藤田真郎, IJF総会報告, 柔道, 74 (11), pp. 60-68, 2003.
- 13) 中村勇, データで見る最近の世界選手権の傾向, 柔道, 75 (8), pp. 86-91, 2004.
- 14) 中村勇, アテネ五輪をデータで解く [前編], 近代柔道10月号, 304, pp. 58-61, 2004.
- 15) 中村勇, アテネ五輪をデータで解く [後編], 近代柔道11月号, 305, pp. 53-56, 2004.
- 16) 中村勇他, 1995～1999年世界柔道選手権大会の競技内容分析: 勝利ポイントと勝利ポイント獲得技による比較, 武道学研究, 35 (1), pp. 15-23, 2002.



- 17) 中村勇他, 1995年から1999年までの世界柔道選手権大会のポイントの獲得傾向—性別と階級別の比較—, 講道館柔道科学研究会紀要, 第9輯, pp.147-156, 2002.
- 18) 中村勇他, 2003年世界柔道選手権大会の競技分析—1995～2001年大会との比較—, 柔道科学研究, 9, pp.1-6, 2004.
- 19) 中村一成他, '97世界柔道選手権大会の競技分析—特に, 反則の面から—, 柔道科学研究, 6, pp.25-30, 2000.
- 20) 野瀬精喜, 大会観戦記, 柔道, 72 (9), pp.47-48, 2001.
- 21) 岡田弘隆, 大会を終えて—男子の部, 柔道, 74 (11), pp.40-43, 2003.
- 22) 大迫明伸, 大会を終えて—男子の部, 柔道, 74 (11), pp.38-40, 2003.
- 23) 菅波盛雄, 世界柔道選手権大会, 柔道, 74 (11), pp.5-20, 2003.
- 24) 上村春樹, 大会総評—2003年世界柔道選手権大会を終えて, 柔道, 74 (11), pp.35-37, 2003.
- 25) 上村春樹, IJF通常総会, 柔道, 68 (12), pp.50-52, 1997.
- 26) 若山英央他, 2001年世界柔道選手権大会男子優勝者の競技特徴として, 柔道科学研究, 9, pp.12-26, 2003.
- 27) 山口香, 大会を終えて—女子の部, 柔道, 74 (11), pp.45-47, 2003.
- 28) 横尾一彦, 大会観戦記, 柔道, 74 (11), pp.50-52, 2003.
- 29) 吉鷹幸春, 世界柔道選手権大会, 柔道, 70 (12), pp.5-19, 1999.